

1 主題名 志をもって生きる

2 資料名 すすむべき道～野口清作～（自作資料）

（主として 4－（5）家族を敬愛し、幸せを求めてすすんで役立つ）

3 授業構成

（1）新学習指導要領上の位置づけ

伝記資料をはじめとする魅力的な教材の開発や活用について、新学習指導要領及び解説のなかで以下のような記述がなされている。

小学校学習指導要領「第3章 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」の3

（3）先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、児童の発達段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと

小学校学習指導要領解説 道徳編 P. 93

道徳の時間の目標の達成を図り、児童に充実感をもたらすような生き生きとした指導を進めるためには、道徳の時間の資料となる魅力的な教材を多様に開発し、その効果的な活用に努めることが大切である。

（2）教材に対する反省と新しい提案

I. 従来の道徳資料（生活資料）の教材研究に対する問題提起

まず、従来の道徳の資料における教材研究や資料分析のあり方は、どうであったかを考えたい。

従来のいわゆるスタンダードな道徳の授業における資料分析と教材研究は、

- ① 学習で扱う資料を読み、登場する「人間」とその行為のなかにある道徳的問題の所在を明らかにする。
- ② 場面に分ける。
- ③ 中心となる場面を考える。（主人公の道徳的な変化が現れており、子どもが一読して読み取れないような心の動きをとらえさせたい部分）
- ④ 中心となる場面で子どもたちにどのような発問をするかを考える。
- ⑤ 中心発問によって、子どもたちがどのような反応を返してくるかを予想する。
- ⑥ 中心発問と予想される児童の反応が決まったら、その前後の場面について必要な発問を考え、子どもたちの反応を予想する。

というものであろうと考える。

確かに既存の生活資料をもとに、「学習指導要領におけるいわゆる価値項目を効率よく指導する」ためには、このような資料分析と教材研究のあり方が効果的なものかもしれない。しかし、本時の学習は、この「生活資料」という部分と「スタンダードな資料分析・教材研究」に対する反省の上に立って教材研究を行い、実践を試みた。

II. 既存の伝記資料に関する問題提起

では、伝記資料を扱った道徳の時間のあり方はどうか。多くの出版社の副読本のなかにある伝記資料を見てみると、ひとつの問題点を見いだすことができる。それは、確かに人物を扱った資料ではあるが、特定のエピソードが抜粋された文章であり、人物の個性や生き様といった伝記資料本来のもつ「人の生き方に学ぶ」視点が欠如しているものが多いということである。

これは、先にも述べた、「学習指導要領におけるいわゆる価値項目を効率よく指導する」ためには、その価値項目に適したエピソードのみを取り上げて指導した方が都合がよいからだと考えられる。実際にこういった資料を用いて授業してみればわかるが、その人物の性格やものの考え方などを何も知らないで授業を進めると、児童は主人公の生き方に関係なく、価値に関する知的理解の域から脱することができない平板な話し合いに終始してしまう。

そこで、本時は、「伝記資料とはどうあるべきか」ということと、「伝記資料を使って学習を進めるための教材研究はいかにあるべきか」について考えた。

前述のような都合のよいエピソードだけをまとめて構成された資料では、本来学ぶべきその人物の生き方が見えてこない。そして、そのような資料では、人の生き方に対する感動や憧れが持てず、自らの内面にモデル像を構築することもできないことが問題なのだと考える。この問題意識を出発点として、「人の顔の見える伝記資料」を用いることに留意した。

本資料は、野口英世の青年期までの成長の過程について母との関わりなど象徴的なエピソードをまとめたものである。この資料のなかに出てくる「寝る間もおしんで自らの目標に向かって努力する清作の姿」を支えていたものが何かを考える活動を通して、家族を愛することや自分の良さを伸ばしていくこと、友と支え合いながら互いに高まろうとする姿など人の生き方を支える多様な心情を感得させることができると考える。本時は、主として内容項目の4－(4)「家族愛」をねらいとしている。特にこの資料では、互いの心のつながりが家族を支えているということを感じ得ることが重要であると考え。家族に対して親愛の情をもつことは自然な心の働きである。そして、共に生活する家族に思いを致し、家族のために役立とうとする道徳的实践力を育むことができるよう活動を深めていきたい。

また、清作の勤勉努力の精神を支えていたものとして、自己を見つめ、向上心を持って自分を伸ばすこと（個性伸長）や、支え、助けてくれた方々へ感謝すること（尊敬・感謝）、より高い目標を立て、粘り強く取り組むこと（勤勉努力）などにこだわりをもって考える児童もいると予想される。人の生き方を考えるときに、行為を支える価値観を多様な視点から見つめていくことが重要である。そして、一人ひとりが人間の生き方についてこだわりをもつことこそ、児童が自分の生き方を主体的に見つめ直し、考えを深めさせることができると考える。

（３）道徳の時間の学習において、児童に期待する学び方

道徳の時間の学習を考えたとき、学習する資料のよさ、おもしろさはもちろんであるが、「資料との対話」「仲間との対話」「自分との対話」によって、道徳の時間における学びを楽しもうとする姿を求めていきたい。

単に自分が知っていることを言い合っている状況は、対話とは言わない。未知なるものと出会い、自分の知識がその対象の表層でしかないということを認識することが対話のスタートと考える。また、「会話」は“単なる情報の交換”であり、「対話」は、“情報を受け渡ししたときに、学習者の変容をともなうような（変容が期待できるような）活動”と捉える。この場合の変容とは、「体験を通して新たに芽生えた感情」や「友達と話し合ってよりよい解決方法を見いだす活動」、「今までの自分をふり返り、自分がどうありたいかを自問すること」など多岐にわたる。

授業の中では、「対話」は主に以下のような場面で展開される。

- ① 未知なるものとかかわって、気づく、変わる。
(価値あるものとの出会い。資料との対話)
- ② 自らのなかで自問自答し、言語化することで考えを明確にする。
(課題に対して自力で解決に取り組む。自己内対話。)
- ③ 応答的な関係性のなかで、自分の考えと他者の考えとを交流し、集団として高まっていく。
(相手意識のある、他者の変容を促すような話し合い活動。他者との対話)

対話は他者とのかわりに
 おいて自分を深く見つめ、他者
 の考えを肯定的もしくは批判
 的に受け入れつつ、自らの考え
 に生かすことが重要である。こ
 れがなければ決して交わるこ
 とのない個人の主張に終始し
 ただけに終わる。

本学級の児童に必要なこと
 は、「他者との関わりを通して
 個人の力が伸び、集団としても
 高まること」であるとする。質
 の高い対話によって構成され
 た授業により、個人及び集団
 としての思考力、判断力、表現
 力等が育成されると期待する。

(4) 本時に向けての教材研究

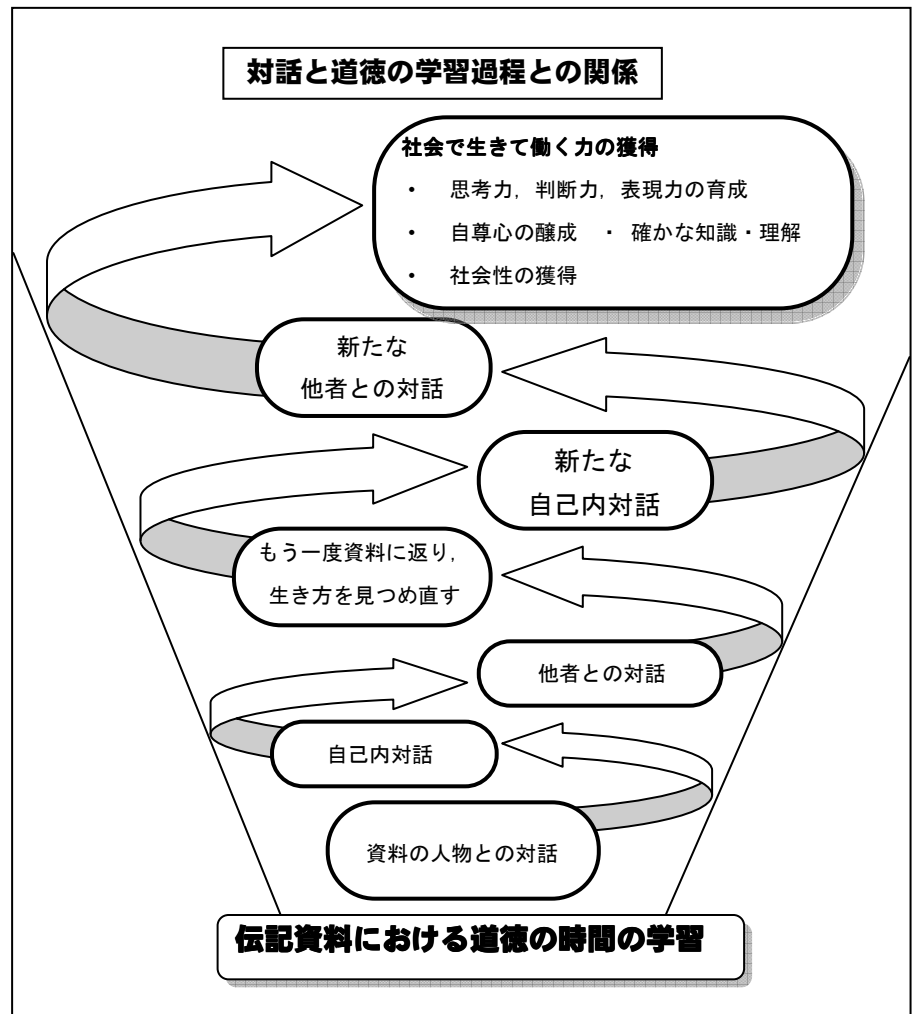
これまでの実践でも、伝記資
 料を用いるにあたり、事前に伝
 記を読ませたり、調べ学習をさ
 せたりする取り組みを行って
 いた。しかし、事前の学習への
 取り組みが児童個々によって
 差があり、結果として学習が全
 体のものになり得ていない様子を感じることがあった。

そこで、事前学習の取り組みを児童個人にゆだねる部分と、全体で進めていく部分とに分けた。児童個人では、以前と同様に野口英世の伝記を読んだり、自分で調べ学習をしたりすることを奨励した。そして、全体には道徳ファイルを持たせて教師が配布するプリントを読んで感想を書く活動を行った。

本時では、小学校時代の清作と母シカの様子について初発の感想を出し合う活動を通して、自分の人生をかけて我が子を思う母の姿と、その母の思いを受け止め必死に伝えようとする清作の思いなどに共感させたい。そして、「なぜ、清作が寝る間もおしんで勉強をしたのか」について考える場面で、清作の生きる姿を支えていた思いについて子どもたちなりのいろいろな視点で見つめた発言をうながす。そうすることで、清作の生き方について、それぞれの子どもの視点で捉えなおし、自らの生き方へ還元したい部分を語らせていきたいと考える。

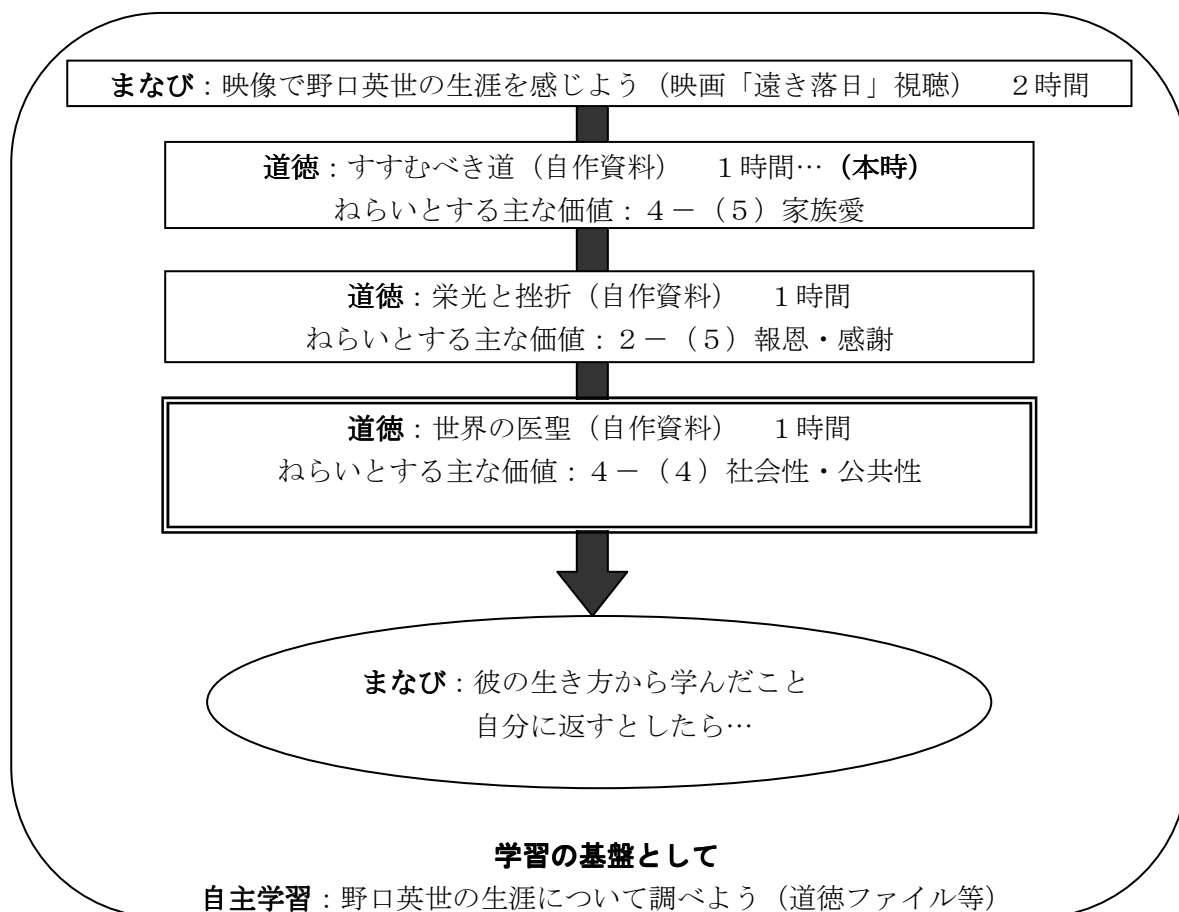
野口英世に対する深い感動と話し合い活動の活性化を促すために、まず、子どもたち一人ひとりが野口英世についての事前学習を進めてきた。野口英世の生き様についてそれぞれの子どもたちが調べ活動をすることで、学習のなかで、それぞれの野口英世像をもとにして話し合い活動を進めることができると考えたからである。さらに、野口英世の生き方を読み物の世界以外でも感得させたいと考え、映画「遠き落日」を視聴した。また、教室内に常に数冊の野口英世の伝記を置き、子どもたちがいつでも読める状況をつくった。

本時の展開のなかで、子どもたちは、「なぜ、寝る間もおしんで必死に勉強をしたのか」という部分に話し合いの中心を置くと考えられる。単に資料のなかの言葉で英世の気持ちを表現するのではなく、清作の強い意志を支えているものは何かという視点をもたせながら考えていく。そうすることで、子どもたちが今までに調べてきた清作の生き様を振り返らせながら、母への愛情と期待に応えたいと



いう想い、自分の力を徹底して伸ばしたいという意志、支えてくれる人への感謝の気持ち、おしむことなく努力を続けたいという意志などの観点から話し合いを進めることができる。そして、話し合い活動のなかで、子どもたちがこだわった視点をもとにして今の自分を語っていけるようにしたい。そうすることで、本時で学んだ生き方を自分の生き方に返していくことができると考える。

4 単元構想（総時間数 5 時間）



5 本時の学習

（1） 本時の目標

寝る間もおしんで勉強を続けた野口清作を支えていた心情について迫る話し合い活動を通して、互いの心のつながりが家族を支えているということを感じ得る。そして、共に生活する家族への感謝の思いを深める。

（2） 期待される児童の様相

- A：野口清作を支えた思いについて、自分なりの視点をもって、自分の経験と重ね合わせながら思いを語る。
- B：野口清作を支えた思いについて、自分なりの視点をもって考え話し合う。
- C：野口清作を支えた思いについて、自分なりの視点をもって考える。

（3） 準備

資料「すすむべき道～野口清作～」，道徳ファイル，提示用写真，ワークシート

(4) 本時の展開

(◇：全体への支援 ◆：個への支援 ○：教師の意図)

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援・意図
1. 感想の分析 2. 問題の焦点化・共通化	○資料「すすむべき道～野口清作～」を読んで各自が感想をもつ。 ○資料の主人公の生き方に対して、どんな感想をもったか。 ・お母さんが、清作のために必死で働く姿 ・左手のことでいじめられながらも、母の思いに応えて学校へ行く清作の姿 ・必死に働く母の思い応えて、いっしょうけんめい勉強する清作の姿 ・いじめられていた清作を支えた代吉のやさしさ	○資料の内容を正しく共感的に把握させる。 ○資料の主人公である野口清作の幼少時代についての感想交流をさせる。 ○野口清作の必死に勉強する姿や、それを支える母シカをはじめとする人々の姿に感想や問題意識をもつ児童が多いと考えられるので、問題をその部分に焦点化していきたい。
野口清作の生き方を支えたのは何だったのかについて、話し合い活動を通して迫ってみよう		
3. 問題の明確化・追究	◎なぜ、清作は、寝る間もおしんで猛勉強したのだろう。猛勉強する清作を支えていたのはどんな思いなのだろう。 ・お母さんはいっしょうけんめい働いているので、お母さんのために勉強をがんばろうという思い（家族愛） ・自分は、やけどのために勉強をがんばるしかないという思い（個性伸長） ・支えてくれているまわりの人たちに感謝し、恩返しするためにも勉強をがんばりたいという思い（報恩感謝） ・いじめていた子どもたちに負けたくないという思い（不撓不屈）	○彼の勤勉・努力の精神を支えていたものが家族愛、個性伸長、報恩感謝、不撓不屈など様々な諸価値であることについて、子どもたちの話し合いをもとに迫らせたい。 ◆子どもたち一人ひとりが、自分がこだわりたい価値観について語ることができるよう話し合いのなかで簡単に類型化する。 ◇自分のこだわりだけでなく、友達の意見から感じることにについても話し合いが広げられるようにする。
4. 価値の選択・決断・主体化 5. 本時で学んだことの確認	○今日の学習で出てきた「清作を支えていた思い」のなかで、自分が大切にしていきたいことはどんなことだろう。 ・（家族愛）家族のために自分にできることを考えて家族を支えたいと思う。 ・（個性伸長）自分にも目標があつてそれを達成したい。そのために自分の力を伸ばす努力がしたい。 ・（報恩感謝）自分も生活のいろいろなところで友達や周りの人に支えてもらっている。常に感謝の気持ちをもちたい。 ・（不撓不屈）困難を感じるとすぐにあきらめてしまうところがある。自分に負けない強い意志をもちたい。	○学習のなかで考えた生き方を支えるものについて自分の生活と重ねて考えられるようにする。 ◇ワークシートに簡単に記入し、そのあとでそれぞれの思いを語らせたい。 ◇より多様な考え方にふれさせる機会とするために、それぞれの子どもたちがこだわって考えたことについて挙手による指名だけでなく、意図的指名も取り入れる。 ○次時以降の学習内容を伝え、学習の見通しをもたせる。

(5) 参考文献等

視聴覚資料

- ・ 「遠き落日」 監督：神山征二郎／脚本新藤兼人 松竹株式会社

文献資料

- ・ 「児童伝記シリーズ2 野口英世」 宮脇紀雄著 偕成社
- ・ 「世界伝記全集第19巻 田中正造／野口英世」 砂田弘・滑川道夫著 講談社
- ・ 「子どもの伝記全集4 野口英世」 馬場正男著 ポプラ社
- ・ 「子どもの伝記1 野口英世」 浜野卓也著 ポプラ社
- ・ 「見えない人類の敵にいどむ 野口英世」 滑川道夫著 講談社
- ・ 「学習まんが人物館 野口英世」 関山英夫監修 小学館
- ・ 「満点人物伝 両さんの野口英世」 井出孫六監修 集英社
- ・ 「道徳・特別活動重要用語300の基礎知識」 押谷由夫・宮川八岐編集 明治図書
- ・ 「道徳教育とは何だろうか」 横山利弘著 暁教育図書
- ・ 「道徳教育，画餅からの脱却」 横山利弘著 暁教育図書
- ・ 「道徳教育入門〈その授業を中心として〉」 日本道徳教育学会編 教育開発研究所